

梅蝶樓國貞画

伍編

第貳拾

卯辰新金堂
春史松碎

下之卷



七

金花

變

化

春霞樓秀賀作

上之卷



金花七變化

第二四至二七編

13
1182
8



東鑑七卷

廿四
廿七

小
五二
八
号

特
一
1182
8

1182
7



春霞樓秀賀作

上之巻

七

花

變

化

梅蝶樓國貞画

五編

第貳拾

卯春新史
金松堂梓



金卷七變化
第貳拾五輯

上之卷

鶴亭秀賀作

歌川國貞画

金松堂梓

卯春

新史

下之卷

金華七變化

筭式拾五層

下注

秀賀

周負画

金控堂

様

丁卯

支



月落鳥啼了始て驚く机上の夢覺を空中に稿
 成り一彼金華猫の物語り干粵寓言五百葉敷を
 重編て不文言二十五編と續き一も想へば厚き
 御員負の餘慶は有バと余計成談話も自然實
 入て本傳ありぬ外傳は話外が過ると言はん歟
 なれ共是ぞ未竟の妖猫退治の大功顯は先伊東
 左右太の譚は移る其縁口とて視あらし

慶應三丁卯年

孟春日稿成

鶴亭藤村秀賀識





○幸ゆきの丞じやう
の妻つま於お菊きく

實じつ名な四し郎らう兵へい衛ゑ
未いま知し難なん波は屋や



難なん波は屋やの
於お渾こん家か角かく

□ 種乃我ら解新きんもりあてりゆく思係へが
 □ 吉人もは我當一思れど思乃昔のあのがさるぐ
 □ 赤いあまのたうぢい或ハあけ候は初原の一好二好で
 □ 海系多面ふき狸もねんらの浦津く物屋の
 □ 小乙羊我揺れどをのぐ後節も深まらば運解
 □ 昔お我明は変さ人多れど好める屋とてたのふ
 □ 昔一とあをどれど有候あよ次の日ら枕まらひき
 □ かなも起出蓋て有候又僕一疋の小猫を飼金なる
 □ 一柱の下うそ珍我唱はて戲程とれ。あは又賦り
 □ 是の好しも河れ金華猫の尻尾とて金和者より



大内家の
若君甲子丸

山口玄蕃
若君の
附人と

江々五喜母と乳の君若



△一子
同苗
左門
太郎
行春

幸の女
の渾
家の
菊



△外記
撫島
大内家の元臣
實ハ
鯨淵悪左衛門
海賊の首領
伊村
幸之丞光忠

林論寺
皆空
實ハ
伊村

鯨淵の
手下

龍の
三八

梅蝶樓國貞画

春霞樓秀賀作

分可
の海
化

下卷

全巻



梅蝶樓國貞画

上卷



春霞樓秀賀作
 梅蝶樓國貞画

変化の海

下巻



金花七変化
 化廿四輯

上の巻

高ノ賀作
 國貞画
 辻文板

卯の春

撫島外記 鶴亭のてんま
左門本郎 鶴亭のてんま
下 鶴亭のてんまの三十八

鶴亭秀賀著



棟梁樓國貞畫

<p>金華七変化</p> <p>水鏡山鳥奇談</p> <p>傀儡師</p> <p>花の御所九重日記</p> <p>文 地本雙紙問屋 金松堂</p>	<p>四編 変替作</p> <p>五編 國貞画</p> <p>三編 無き文作</p> <p>四編 國貞画</p> <p>初編 秀賀作</p> <p>追分 國貞画</p> <p>出版 國貞画</p>	<p>横山町三丁目</p> <p>辻岡屋文助梓</p>
---	--	-----------------------------

慶應三年丁卯初春開版目錄

漢草刈十社歌起

言戸川の廻り... 漢草刈十社歌起

神一 仙一角九

文 問屋 金鈴堂

周防漆博換操

梅春霞引始

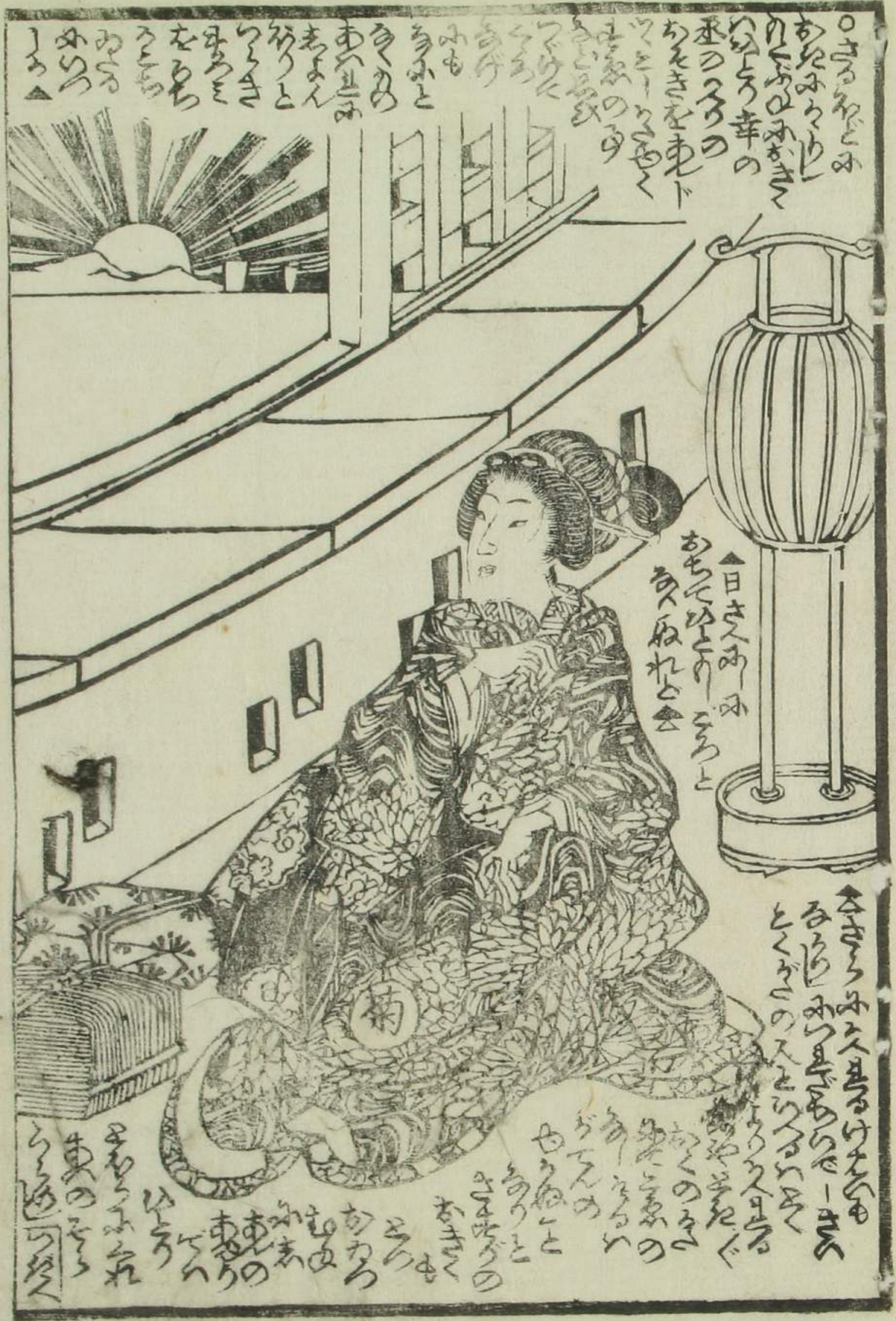
濡衣女鳴神

假枕巽八景

道外江戸名所

横山町目 辻問屋文助





〇はるのやぶ
 あはれみちの
 りんごのあまき
 りんごのあまき
 春のさきの
 むすぶきを
 〇はるのやぶ
 あはれみちの
 りんごのあまき
 りんごのあまき
 春のさきの
 むすぶきを

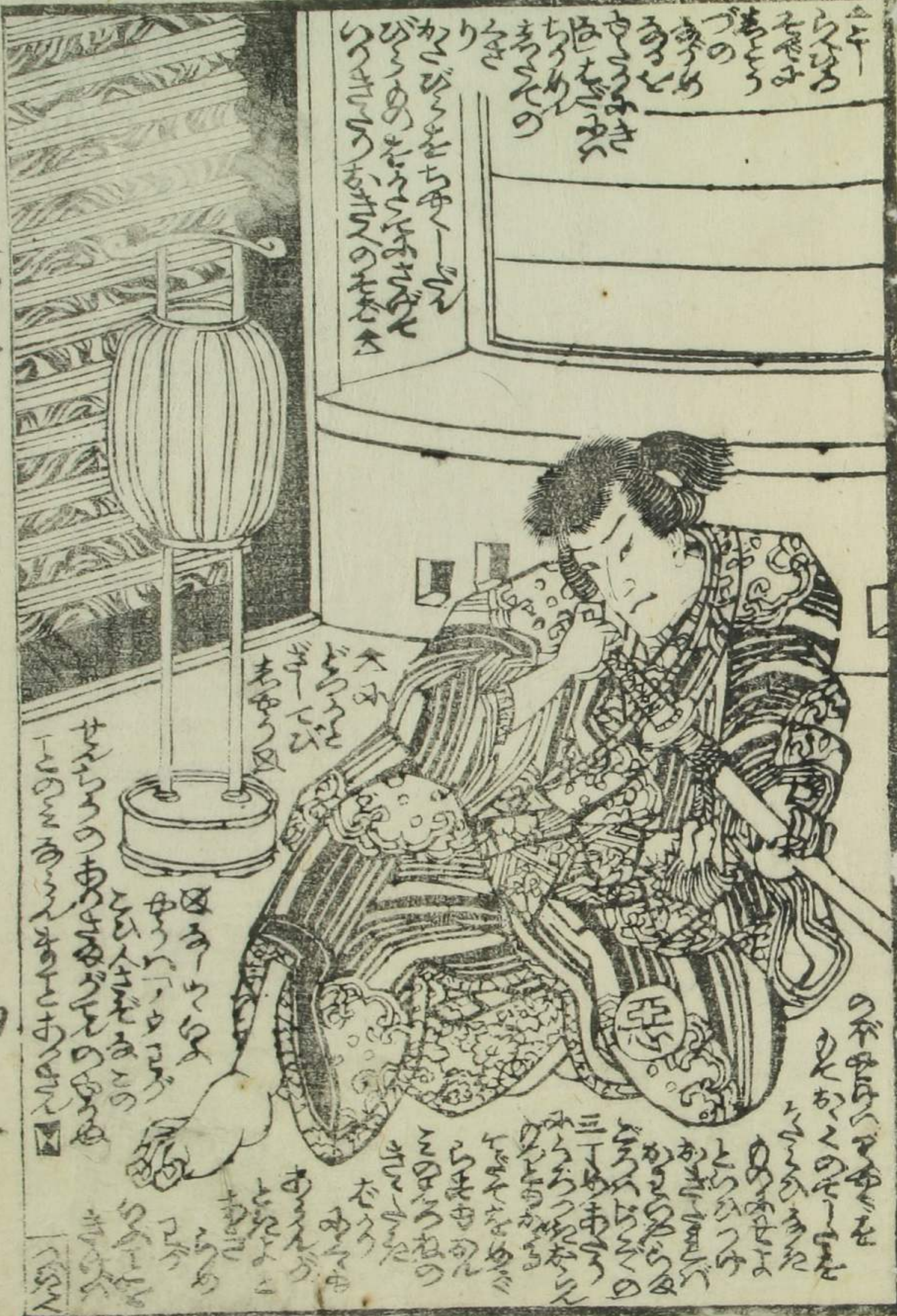
▲日さす
 あはれみちの
 りんごのあまき

▲はるのやぶ
 あはれみちの
 りんごのあまき
 りんごのあまき
 春のさきの
 むすぶきを

あはれみちの
 りんごのあまき
 りんごのあまき
 春のさきの
 むすぶきを

〇はるのやぶ
 あはれみちの
 りんごのあまき





かごびんをちやくーん
びんのをちやくーん
いんかんのちやくーん

かごびんをちやくーん
びんのをちやくーん
いんかんのちやくーん

かごびんをちやくーん
びんのをちやくーん
いんかんのちやくーん



かごびんをちやくーん
びんのをちやくーん
いんかんのちやくーん

かごびんをちやくーん
びんのをちやくーん
いんかんのちやくーん

かごびんをちやくーん
びんのをちやくーん
いんかんのちやくーん



あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ



あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ
あはれ

秀賀作

まじきふらふら
 らんごんとも
 さくみんか
 サッあま
 うろくきき
 をわらわら
 とらふた
 とるふら
 とるふら
 ぐらふ
 そのふら
 おまき
 あま
 らうのふら
 ぶあつのも
 由あま
 たらふら
 四いふら



「まじきふらふら
 らんごんとも
 さくみんか
 サッあま
 うろくきき
 をわらわら
 とらふた
 とるふら
 とるふら
 ぐらふ
 そのふら
 おまき
 あま
 らうのふら
 ぶあつのも
 由あま
 たらふら
 四いふら」
 下のふら

國貞画



上のふら
 のふら
 そのふら
 あま
 由あま
 たらふら
 四いふら



下のふら
 のふら
 そのふら
 あま
 由あま
 たらふら
 四いふら





春の
さくら
さくら
さくら

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ



あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ

あはれ
あはれ
あはれ





要三三三初春開版目錄

通鑑綱目十行校定

通鑑綱目十行校定
通鑑綱目十行校定
通鑑綱目十行校定

仙 一 角 九
仙 一 角 九
仙 一 角 九

文 以 既 問 屋 金 粉 堂

周防游樓橫棟

周防游樓橫棟
周防游樓橫棟
周防游樓橫棟

假梳翼人景
假梳翼人景
假梳翼人景

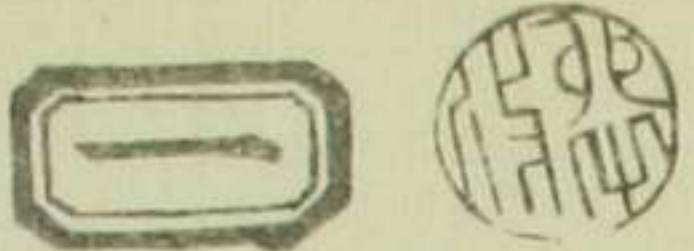
道外江戶名所
道外江戶名所
道外江戶名所











清見がらひ

新申

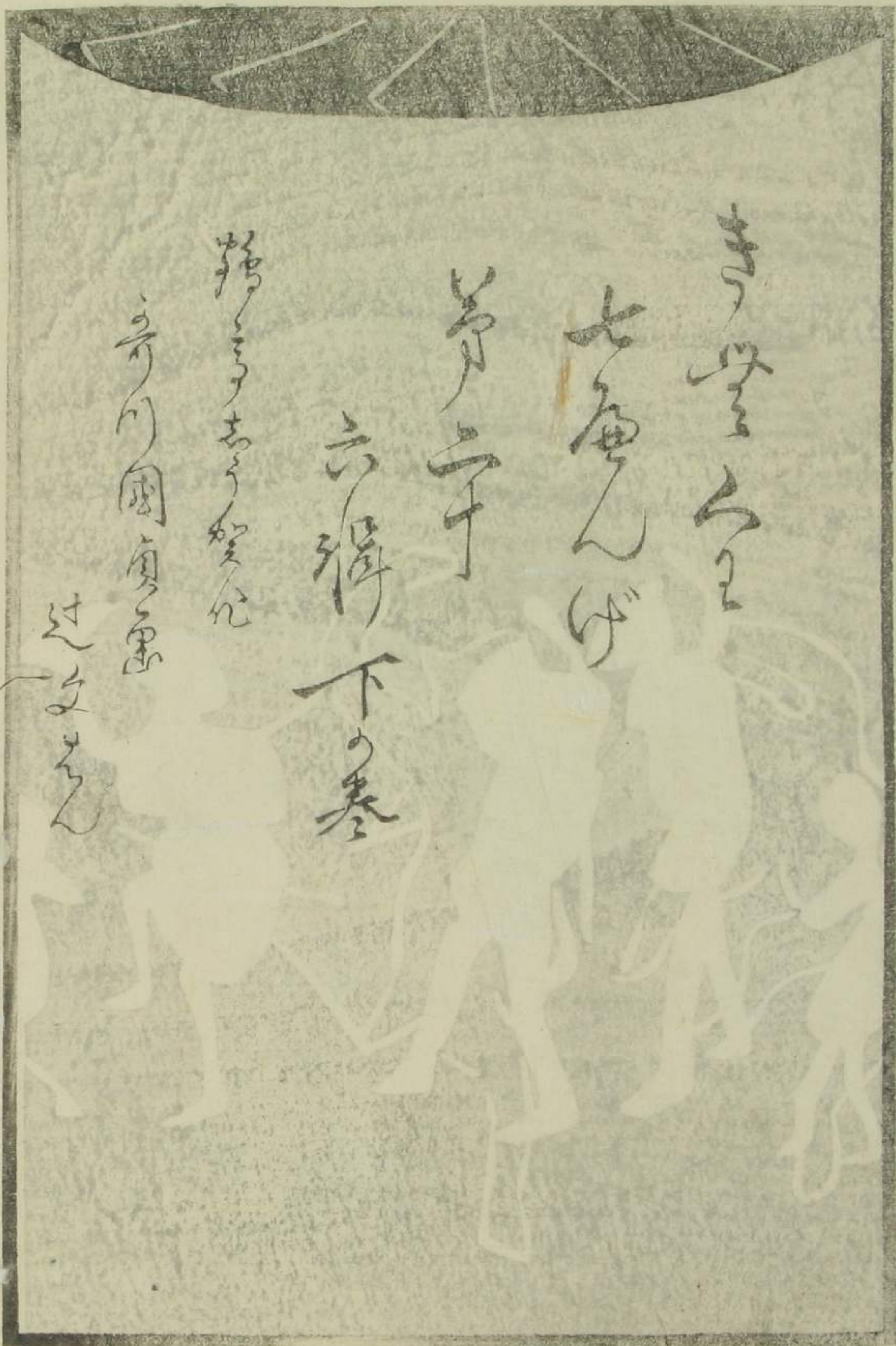
たしや

きりか

竹葉のともやまのくさくさを
きりかみよのくさくさを
この葉もきりかみよのくさくさを
いつ年ものくさくさを
りしやの葉の末を
こをきりかみよのくさくさを
ゆきかみよのくさくさを



1574



きりか

七厘

きりか

六厘

きりか

きりか

きりか



大内家の柱臣
山口玄蕃九

春野の
於方
於王



大守の愛妾
藻の花

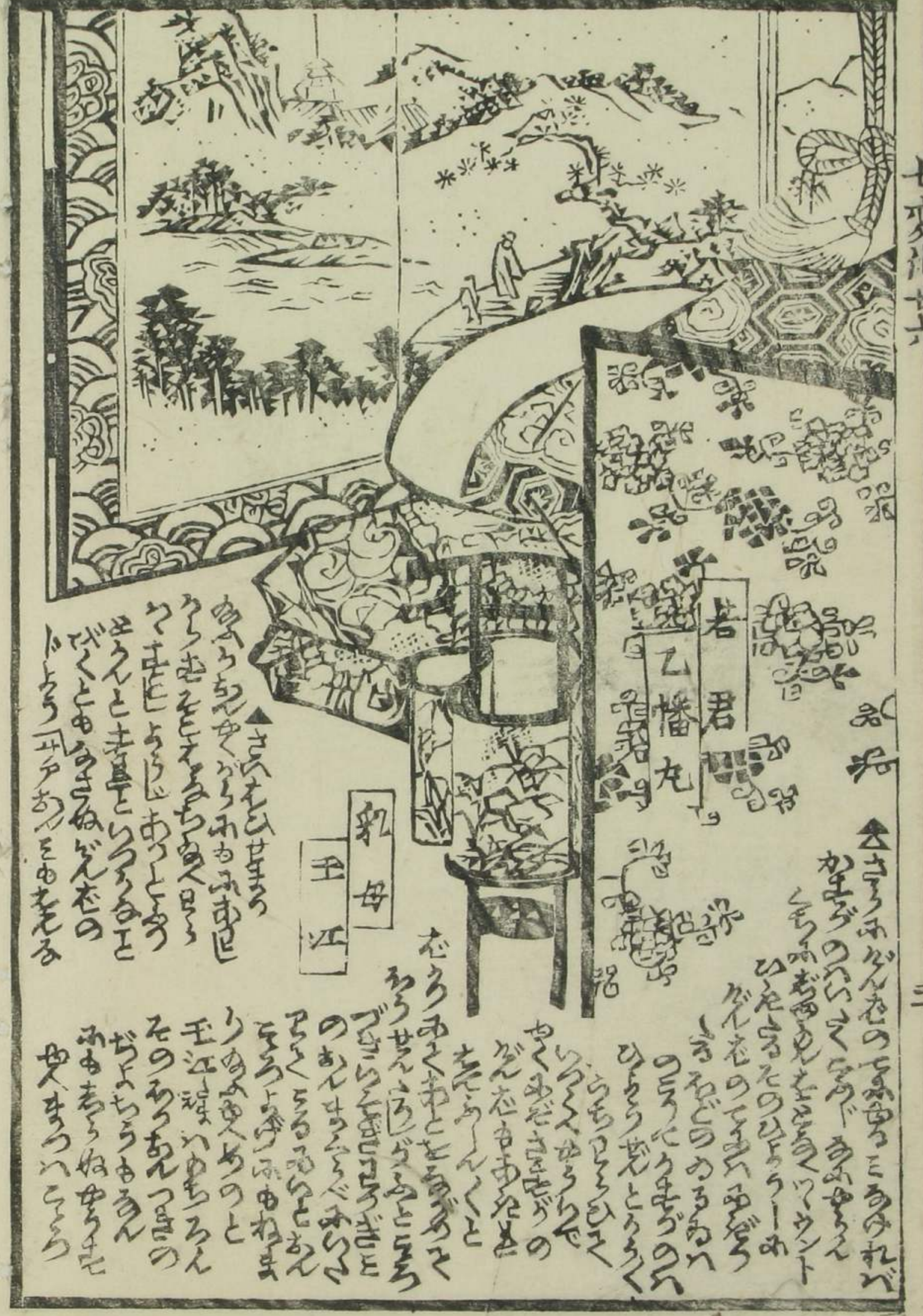
水師
菴





Handwritten text in vertical columns, likely a narrative or commentary related to the illustration.

Additional handwritten text in vertical columns, continuing the narrative or commentary.



Handwritten text in vertical columns, including a label '若君' (Wakakun) and '乙播丸' (Otsuhamaru), likely identifying the character or the scene.



春
 万歳子
 佳辰令
 東宮の典



水
 東宮の典
 万歳子
 佳辰令
 東宮の典

此所ハ春日野
の物語りを
其終み画
しむ



あはれなるぬきふとまとのきれさう
うきまきさそらうてらるるはなれ
さかたをきか木あはれさの
あはれなるぬきふとまとのきれさう
うきまきさそらうてらるるはなれ
さかたをきか木あはれさの



あはれなるぬきふとまとのきれさう
うきまきさそらうてらるるはなれ
さかたをきか木あはれさの
あはれなるぬきふとまとのきれさう
うきまきさそらうてらるるはなれ
さかたをきか木あはれさの





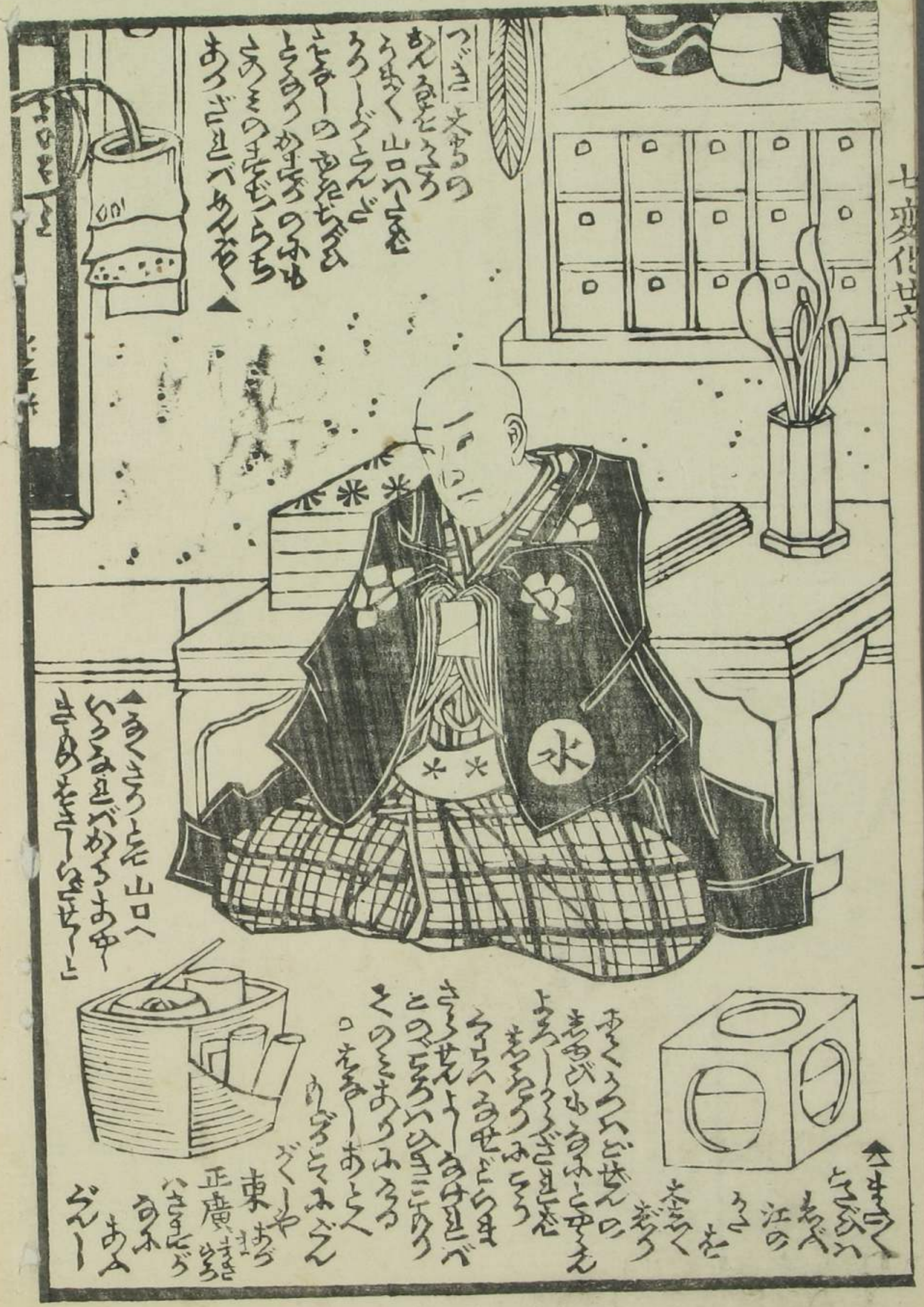
花の香りと水の音
 春の風と鳥の歌
 静かなる夜の
 夢の境



春の夜は静かなる
 夢の境に
 花の香りと水の音
 春の風と鳥の歌

静かなる夜の
 夢の境
 花の香りと水の音
 春の風と鳥の歌

春の夜は静かなる
 夢の境に
 花の香りと水の音
 春の風と鳥の歌
 静かなる夜の
 夢の境
 花の香りと水の音
 春の風と鳥の歌



幸木夫も 伊村

幸木夫も 伊村







...

...

...



...

...

...

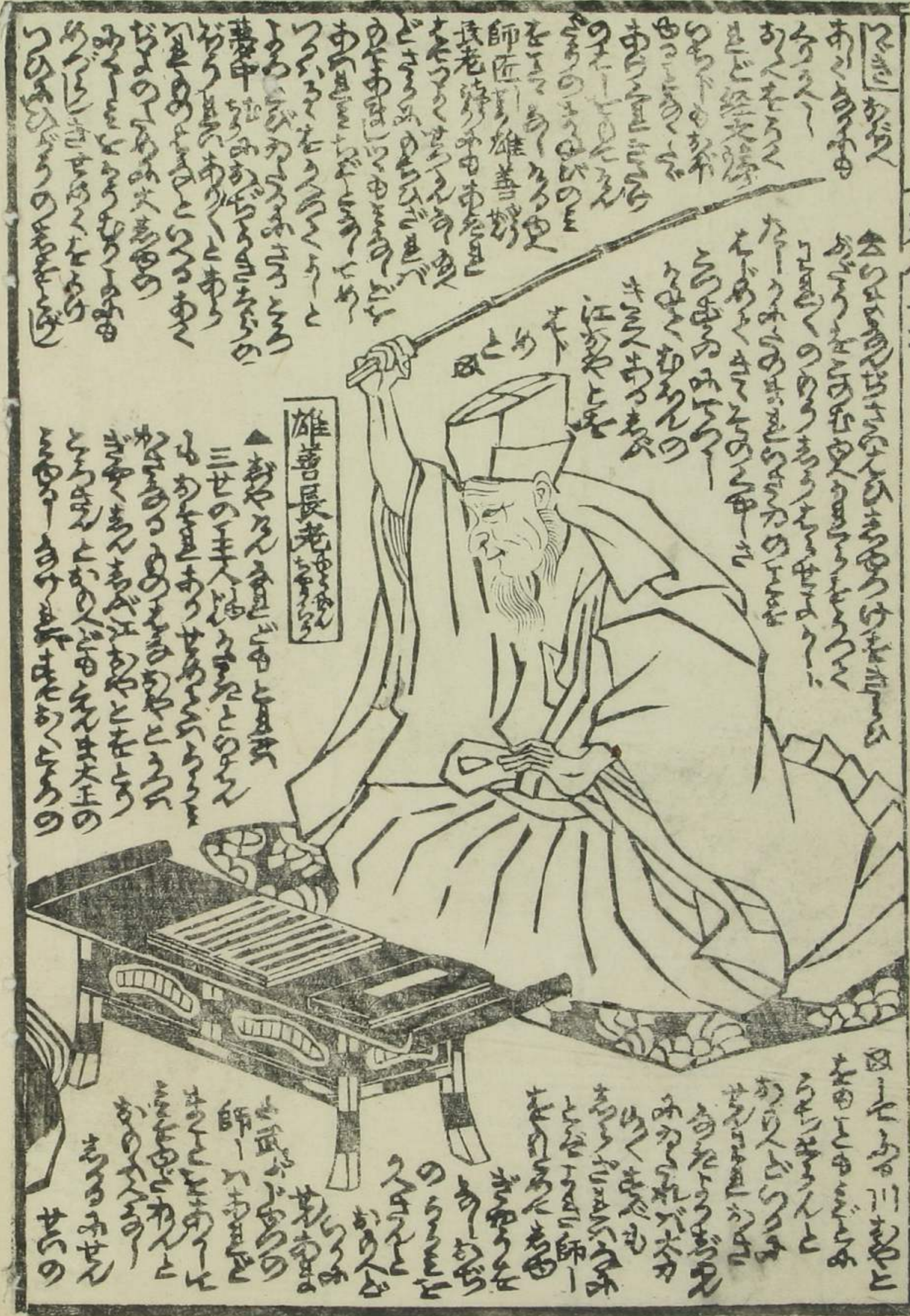
...



のこちんせいのうと千子
とよあはれくひあはれ
あま水江崎のまののた
たをーにさうくのうらわ
りてんてんてんてん
あまあまあまあま
あまあまあまあま
あまあまあまあま

そのこちんせいのうと千子
とよあはれくひあはれ
あま水江崎のまののた
たをーにさうくのうらわ
りてんてんてんてん
あまあまあまあま
あまあまあまあま
あまあまあまあま

あんな
うらわ
くまき
あんな
うらわ
くまき
あんな
うらわ
くまき



あんな
うらわ
くまき
あんな
うらわ
くまき
あんな
うらわ
くまき
あんな
うらわ
くまき

雄善長老

あんな
うらわ
くまき
あんな
うらわ
くまき
あんな
うらわ
くまき
あんな
うらわ
くまき

あんな
うらわ
くまき
あんな
うらわ
くまき
あんな
うらわ
くまき
あんな
うらわ
くまき



Handwritten Japanese text in vertical columns on the top right of the illustration. The text is a mix of hiragana and kuzushiji characters.

Handwritten Japanese text in vertical columns on the right side of the illustration, adjacent to the woman's kimono.

Handwritten Japanese text in horizontal lines at the bottom left of the illustration.



Handwritten Japanese text in vertical columns on the top left of the illustration.

Handwritten Japanese text in vertical columns on the right side of the illustration, above the man's legs.

Handwritten Japanese text in vertical columns on the left side of the illustration, near the man's waist.

Handwritten Japanese text in vertical columns at the bottom right of the illustration, below the man's feet.





東の國に
 西の國に
 南の國に
 北の國に

東の國に
 西の國に
 南の國に
 北の國に
 東の國に
 西の國に
 南の國に
 北の國に



東の國に
 西の國に
 南の國に
 北の國に

東の國に
 西の國に
 南の國に
 北の國に

東の國に
 西の國に
 南の國に
 北の國に
 東の國に
 西の國に
 南の國に
 北の國に



大あん
 けりあまバノ
 さうぞんのまあも
 みむろひ淨太郎
 かみぞうらうら
 つまん



きちるのぼろのさきを
 さきあそびりよめありのよの
 まうくおろるをうらむあそび
 けりあまのまあも
 あ、あつばのま
 みんぞく
 まんぞくの
 あんきく
 のまきさる
 ぞとそら
 さのしゆま
 かうたるあそびあ
 えまのあんみふろ
 ろろがれとまあ
 ちあのもろと
 更まきく

應三年丁卯初春開版目錄

淺草川十柱塚起

官戸川七...
の軍川...
男女十人...
...

神 一 角 丸
調合所 上揚野 東金町 大野傳齋

文 地本 双飯 問屋 金杉堂

周防漆櫓模様

梅春霞段引始

濡衣女鳴神

假枕巽八景

道外江戸名所

過問屋文藝







梅蝶樓國貞画

北
廿七編

下之卷



春霞樓秀賀作

七
七
七

上之卷



梅蝶樓國貞画

北
廿七編

下之卷



金花七變化
第貳十七輯
上之卷

鶴亭秀賀作
歌川國貞画
金松堂梓

己巳秋
新板

狐乱菊の下不眠猫牡丹の蔭小夢視る杯會是其性
 花を愛まら故を致る然者此編一部の趣向も
 猫を以て主と做せば表題さえも金の華と冠せし
 僥倖ありて猫小黄金と捨多るは諸君愛顧の
 御惠を以て年々上梓の功を積一變二變三變目
 クリト廻つて不明の間大怪談小差掛烟草休の寸暇も
 たゞく毫を飛して世有七編の稿終る

己巳春 鶴亭秀賀記





正覚寺の
 住職
 雄善長老
 不明の間
 怪異
 遇ふ



小森
 半之丞
 再々
 大守の
 御前
 出頭
 女
 な
 ま

七
イ
七
七

○さあつちとみ甘井硯
 さとく太へ大書のためと
 うけあはるのまこと
 ひたれうの正覺寺
 元うだ太郎の甥は
 子幸のまゆとら
 のうまひあはは
 ううふ七あんのの
 ありまの御用
 のまぢあはれ
 せんあ甘井さとう太
 行白のむらうとや
 せむじりやうと
 ありまの御用
 せんあ甘井さとう太
 行白のむらうとや
 せむじりやうと



○さあつちとみ甘井硯
 さとく太へ大書のためと
 うけあはるのまこと
 ひたれうの正覺寺
 元うだ太郎の甥は
 子幸のまゆとら
 のうまひあはは
 ううふ七あんのの
 ありまの御用
 のまぢあはれ
 せんあ甘井さとう太
 行白のむらうとや
 せむじりやうと
 ありまの御用
 せんあ甘井さとう太
 行白のむらうとや
 せむじりやうと



玉垂の妖猫
 業通を以て
 屢奇怪を
 顯る

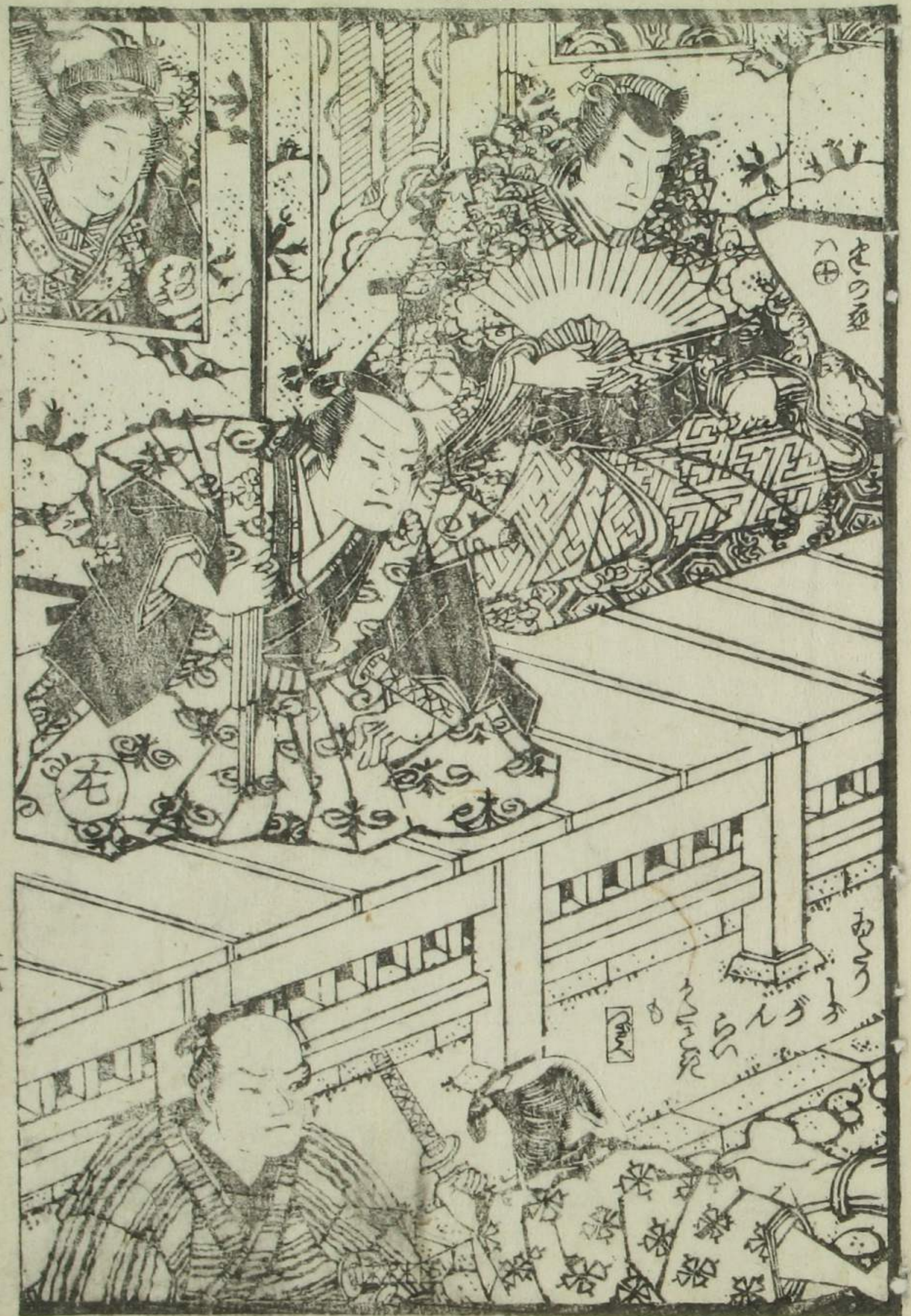




ついでこのあつらゑ
 五臓だのちやふ
 ちくろのあつらゑの
 さのひひあつらゑ
 古川結水あつらゑ
 目かぎやうてのあつらゑ
 つれあつらゑのあつらゑ
 うれあつらゑのあつらゑ
 させんさうおせよト
 あれバロハまことりあつらゑ
 おりさうおせよト
 あつらゑのあつらゑのあつらゑ
 きて大いあつらゑのあつらゑ
 のあつらゑのあつらゑ
 ろのあつらゑのあつらゑ
 ろのあつらゑのあつらゑ
 とのあつらゑのあつらゑ
 水あつらゑのあつらゑ
 そくけのあつらゑのあつらゑ
 大あつらゑのあつらゑのあつらゑ
 あつらゑのあつらゑのあつらゑ
 させんさとあつらゑのあつらゑ
 おまじまあつらゑのあつらゑ

田のあつらゑの
 あつらゑのあつらゑの
 あつらゑのあつらゑの
 させんのあつらゑ
 あつらゑのあつらゑ

あつら
 られて



あつら
 のあつら

あつら
 られて



大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様



大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

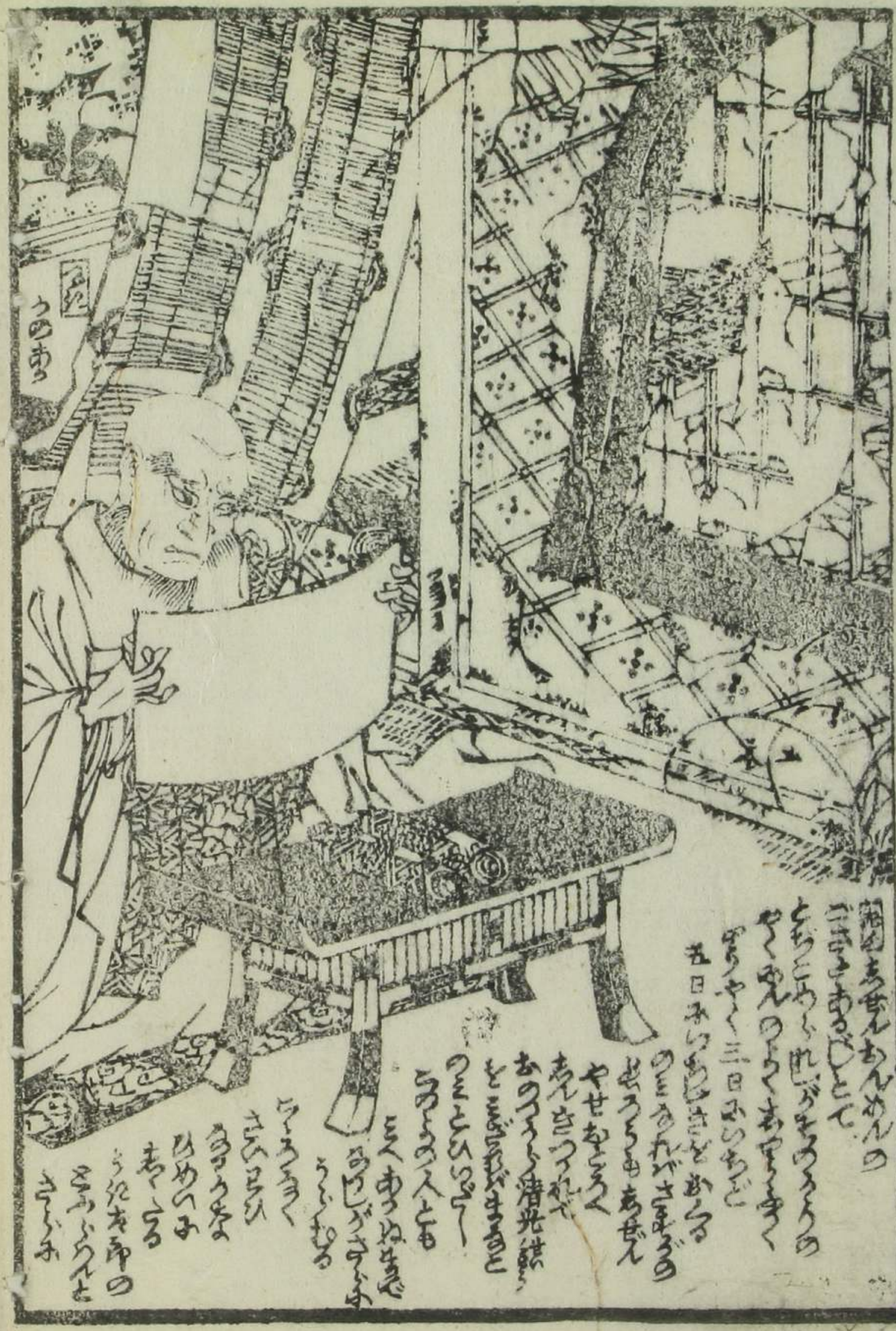
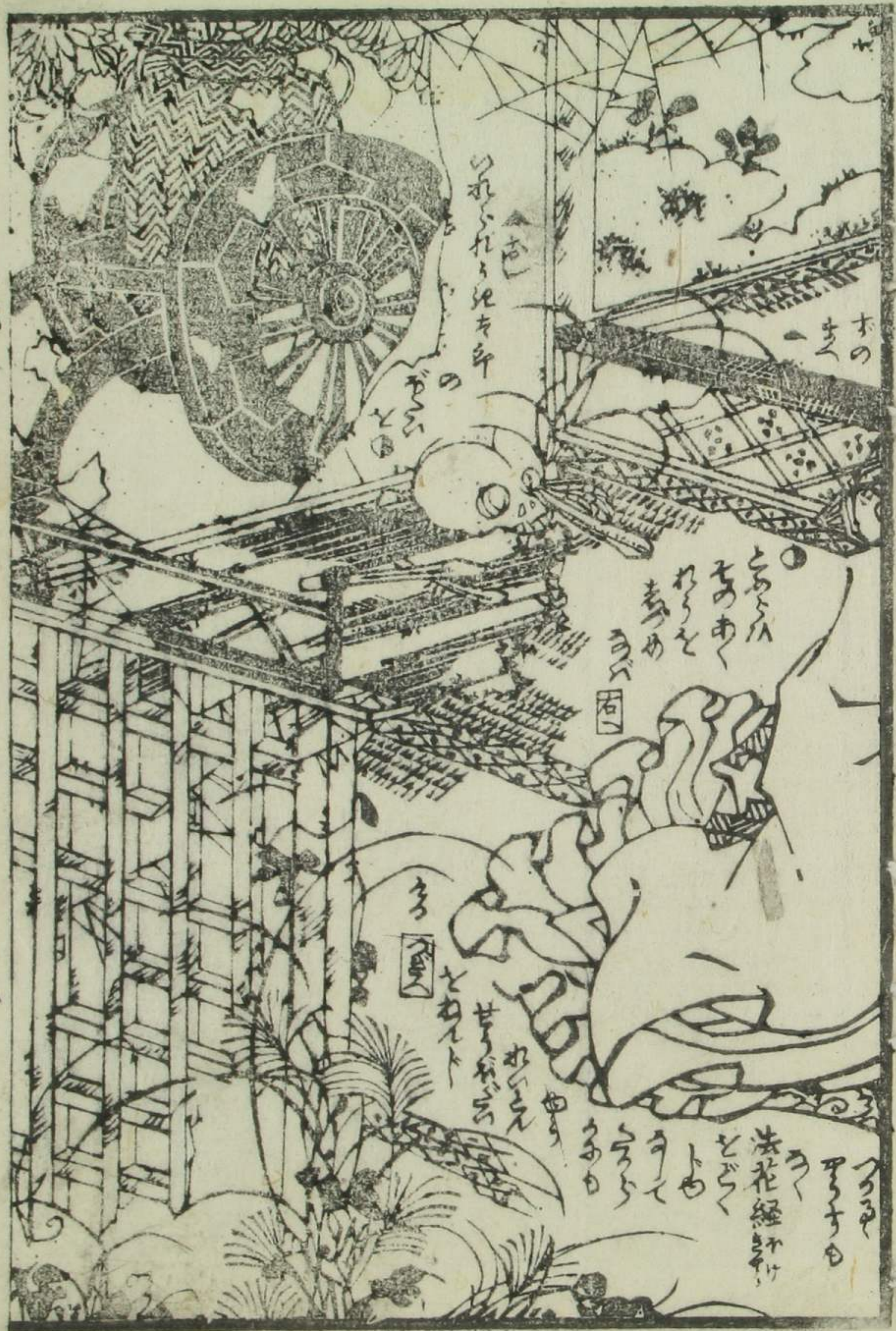
大川上様

大川上様

大川上様

大川上様

大川上様



七変イセ七

玉の好猫の妖猫の
 大内けとせありあり
 あつめらえんらぞ
 きりむらありしも
 せつりゆのさる
 ざらこめれし
 行力
 七ノイセ



玉の好猫の妖猫の
 せはちし
 玉の好猫の妖猫の
 ひたれま



玉の好猫

さあぐおくあうせ
 玉の好猫の妖猫の
 玉の好猫の妖猫の

玉の好猫の妖猫の
 ひたれま

玉の好猫の妖猫の
 玉の好猫の妖猫の



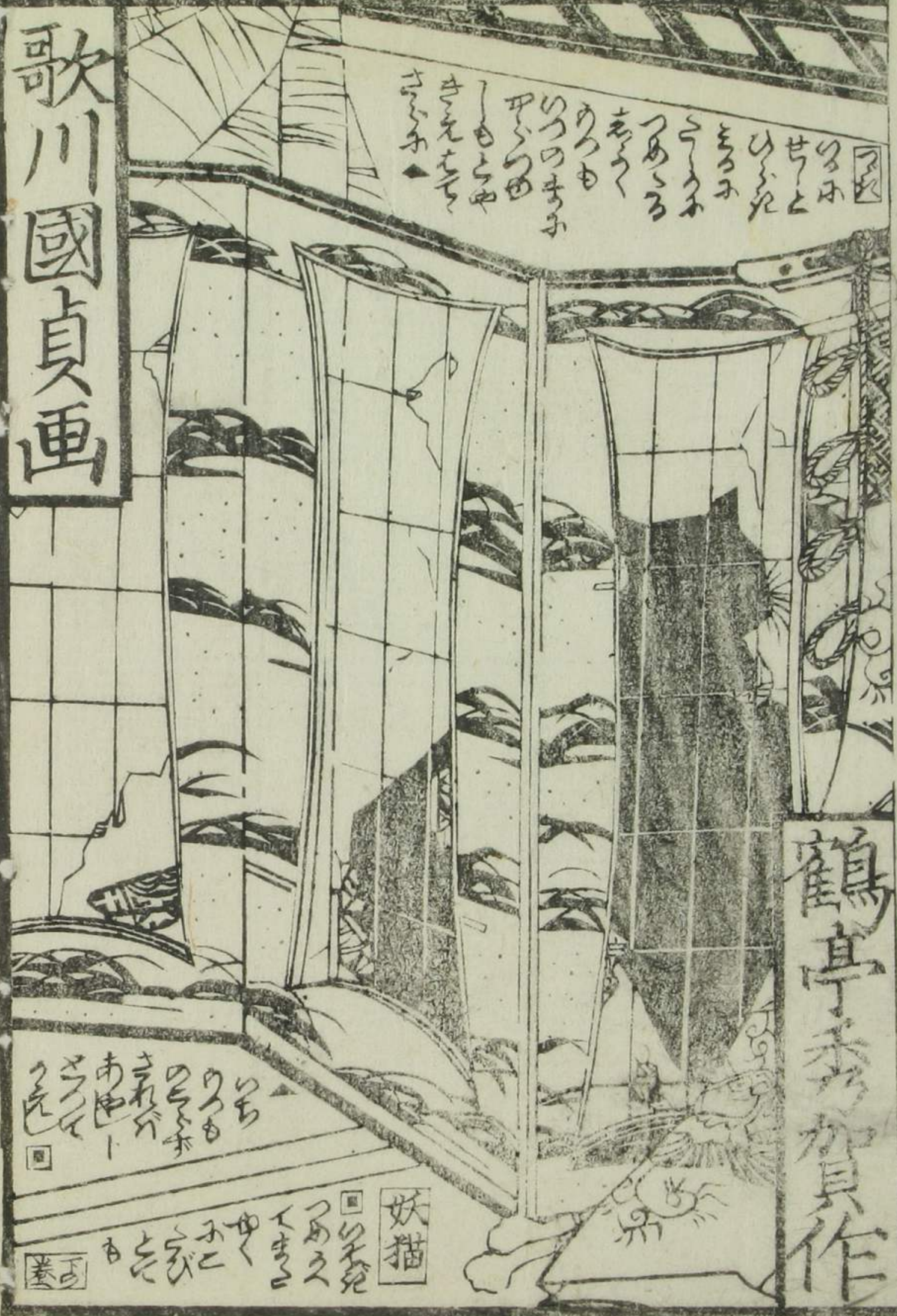
玉の好猫の妖猫の
 玉の好猫の妖猫の

あつたのちてふまて
あはれうつくさき
かむくしをねら
さてもよしんトき
ゆふのまなまのり
あつたのちてふまて
あはれうつくさき
かむくしをねら
さてもよしんトき
ゆふのまなまのり
あつたのちてふまて
あはれうつくさき
かむくしをねら
さてもよしんトき
ゆふのまなまのり



あつたのちてふまて
あはれうつくさき
かむくしをねら
さてもよしんトき
ゆふのまなまのり
あつたのちてふまて
あはれうつくさき
かむくしをねら
さてもよしんトき
ゆふのまなまのり
あつたのちてふまて
あはれうつくさき
かむくしをねら
さてもよしんトき
ゆふのまなまのり

歌川國貞画



あつたのちてふまて
あはれうつくさき
かむくしをねら
さてもよしんトき
ゆふのまなまのり

鶴亭秀加具作

あつたのちてふまて
あはれうつくさき
かむくしをねら
さてもよしんトき
ゆふのまなまのり
あつたのちてふまて
あはれうつくさき
かむくしをねら
さてもよしんトき
ゆふのまなまのり

天中野史



七

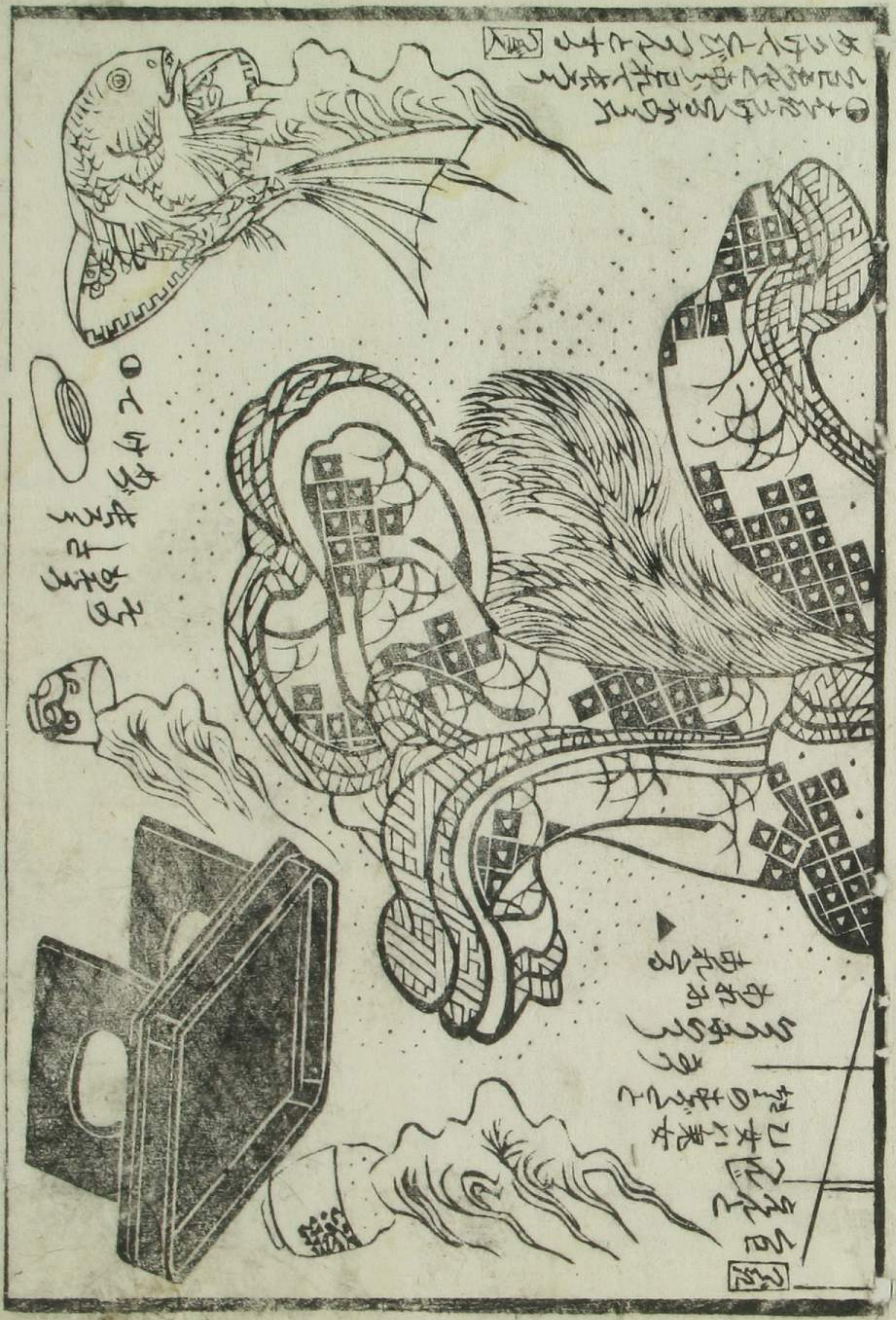
天中野史
卷之七
七



天中野史



天中野史



鶴亭秀賀作

あつさるる
さまの正ちう
まのちやあつさる
そのまのちやあつさる
うせはるるあつさる

これあり
ひきかた
大さるるえ
かのうあ
ぞういせ
あつさと

歌川國貞画



金華

変化

金華の御所九重日記
水鏡山鳥奇談
水鏡山鳥奇談
水鏡山鳥奇談

水鏡山鳥奇談

四編 秀賀作
五編 國貞画

傀儡師

三編 秀賀作
四編 國貞画

花の御所九重日記

初編 秀賀作
二編 國貞画

文 抱本雙紙問屋

金松堂

横山町三丁目
辻岡屋文助梓

慶應三年丁卯初春開版目錄

漢軍川十社縁起

卷一

漢軍川の縁起... 漢軍川の縁起... 漢軍川の縁起...

神

大野傳太衛 角九

文

問屋 金松堂

周防漆樽撰採

梅春霞

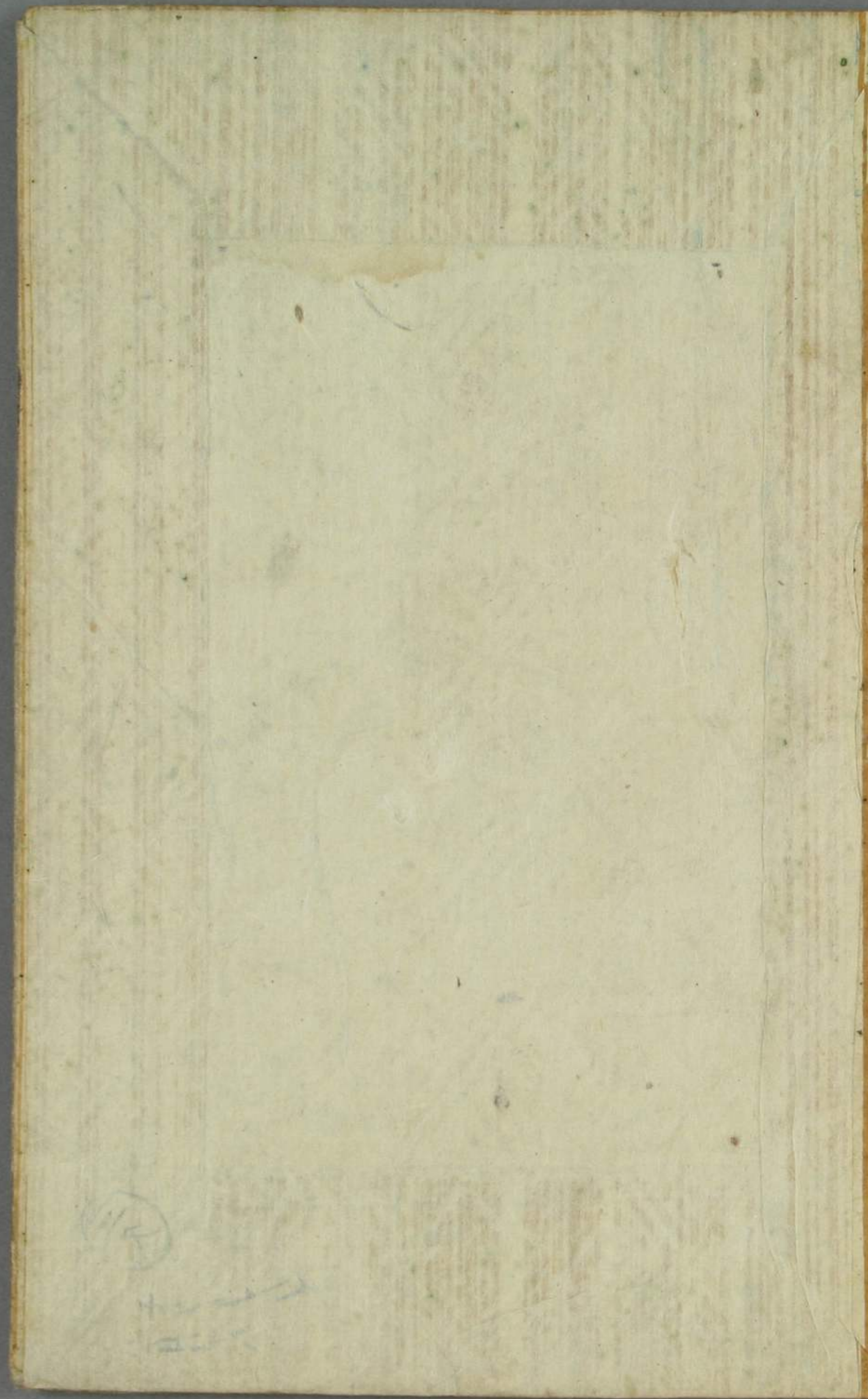
濡衣女鳴神

假枕裏入景

道外江戶名所

通問屋文助





三
部
不
為